

令和8年度 学校経営計画

東京都立東大和南高等学校
校長 古溝 紀也(こみぞ としや)

I スクールミッションとスクールポリシー

【教育目標】「克己・友愛・創造の心を培う」

【目指す学校像】

1 スクール・ミッション

「克己・友愛・創造の心を培う」を教育目標とし、常に自己実現を目指して、己に厳しく努力し続ける創造性豊かな生徒を育成します。学習指導、教養教育、進学指導及び部活動等への取組と実績に基づき、社会に貢献するとともに、自らの好奇心を満たして豊かな人生を構築できる人材を育成します。

2 スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー	「授業で勝負」を合言葉に、「考えさせる授業」「知的好奇心を引き出す授業」を実践して、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現し、人が自分の人生をより良く生きるため」という「学び」本来の意義の浸透を図る。さらに国際理解教育を推進して、言語能力と論理的思考力育成に取り組むとともに、国際交流等とおして日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚を育成する。
(2) カリキュラム・ポリシー	教養主義に基づき文理バランスよく学習に取り組ませるとともに日々着実に努力を重ねさせることで自信をもたせ、「第一志望を諦めない」指導に組織的に取り組む。教科を横断的に学習することで自己表現と課題発見・解決力を養成する。また、国公立大学や難関私大に果敢に挑戦し、自らが希望する幅広い進路を切り拓く突破力を生徒に身に付ける。
(3) アドミッション・ポリシー 期待する生徒の姿	① 高校生活を自己発見の場とし、本校での学習と諸活動を積極的、継続的に行い、その経験を将来に生かすことができる人材。 ② 難関大学進学について高い志と目標を掲げ、その実現に向けて日々学習に取り組み、積極的にチャレンジする意思をもち、学校と家庭において自ら学習に取り組むことができる人材。 ③ 中学校での部活動、委員会活動、学校行事又は校外でのボランティアなどに積極的な活動してきた人材。 ④ いろいろなことに関心をもち、幅広い教養を身に付けようとする高い意識をもつ人材。

II 中期的目標と方策

中期目標 「2050東京戦略」に基づき、以下の取り組みを行う。

1 学習指導(学びの基盤を固める)

- ① 東京都教育ビジョン(第5次)、「未来の東京」戦略及び「東京都教育情報化推進計画」に基づき、Teamsの活用など、全ての教員が学習指導のデジタル化技術を活用した教育の推進に取り組む。一人1台端末を活用した主体的・対話的で深い学びと実践的問題演習等を計画的に取り入れる。
- ② 東京都の教育施策を見据えて、新たな教育課題に取り組む。特に「TOKYO ACTIVE PLAN for students」(第4次推進計画)に基づく生徒の体力向上及び健康の保持増進に努める。体力テストの実施により、生徒の体力や運動能力を把握し、体育活動に役立てる。
- ③ 「東京グローバル人材育成計画'20」及び「東京グローバル人材育成指針」を踏まえ、基盤となる英語力や国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力の育成など、グローバル人材の育成に向けた英語力を強化する。

2 進路指導(自ら未来を切り拓く力の育成)

- ① 三年間を見通した進路指導全体計画に基づき、進路部が主導し、各学年・教科と連携して、組織的・計画的な進路指導を進めるとともに、進学実績の持続的改善が可能な進学指導体制を構築する。
- ② 第一志望を諦めない進学意識を育成する。進路希望や学習時間等の定点観測を行うとともに、模擬試験を計画的に実施し、結果分析を通して学力の推移を把握し、指導に活かす。

3 生活指導(生徒目線に立った特別な支援の充実)

- ① 「都立高校生活指導指針」による系統的・計画的な指導で社会人としての規律・規範を身に付けさせ、人権に十分配慮して指導・助言を行う。生徒に寄り添い、個性や意見を尊重し、主体性を育む。
- ② スクールカウンセラー(SC)とユースソーシャルワーカー(YSW)の活用や特別支援学校との連携を通して、「東京都特別支援教育推進計画(第二期)第三次実施計画」に基づく取組の充実を図るとともに、知識やスキルの習得とカウンセリングマインドの定着に取り組む。またSCによる全員面接や生徒支援委員会の活動を通して、生徒が抱える課題について教職員間での共通認識を図るとともに、必要な合理的配慮等の支援内容の検討と対応を行う。
- ③ 「生徒指導提要」や「チャレンジサポートプラン」を踏まえ不登校・中途退学の未然防止や早期支援等、困難を抱える生徒に対する支援の取組を総合的に進め、多様な生徒たちの学びや成長を支える学習・教育環境の充実を図る。
- ④ 「いじめ総合対策【第3次】」に基づき、いじめに関する授業や研修を実施し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努め、いじめ問題に適切に対処し、生徒が安心して学校生活を送ることができるようにする。
- ⑤ 自殺対策基本法の改定を踏まえ、SOSの出し方に関する指導や相談先の周知等を定期的実施する。

4 特別活動・部活動(目標達成意識をエンカレッジする)

- ① 学校行事や部活動を通して、リーダーシップやフォロワーシップを育成し、企画・管理能力を育む。また、仲間との協働で、責任を重んじる態度の育成やコミュニケーション能力の伸長を図る。
- ② 文化スポーツ等特別推薦を実施する部活動は、上位大会への進出に努めるとともに、教科担当や学級担任と連携して部員の学力向上に取り組む。

5 環境教育

SDGsを推進し、現代社会の諸課題を探究し、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動等を通して環境問題に配慮した生活習慣を確立させる。

6 広報活動の充実(発信先=本校保護者と生徒・中学生と中学校・進学塾・卒業生)

- ① 本校の魅力や、学習情報、受験情報、部活動実績、学校行事、進路状況等について、ホームページやスクールガイドで情報を提供する。
- ② 学校見学会、学校説明会、個別相談会、中学校や学習塾主催学校説明会への参加、塾訪問等について、全教職員による体制で取り組む。

7 組織的な学校運営と働き方改革

- ① 「学校における働き方改革の推進プラン」に基づく教職員のライフ・ワーク・バランスの推進及び「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」に基づく働き方改革の実現に向けた環境整備を実施する。
- ② 体罰、不適切な指導、暴言等の一掃、その他服務事故の根絶に向け、服務事故防止研修等あらゆる機会を捉えて服務事故

III 今年度の取組目標と方策

【今年度の取組について】

推進事業等

- 東京都教育委員会指定 進学指導等の充実事業推進校
- 東京都教育委員会指定 海外学校間交流等推進校
- 東京都教育委員会指定 海外探究フィールドワーク指定校
- 東京都教育委員会指定 「AIを活用した英語教育の充実事業」実施校
- 東京都教育委員会指定 「都立学校における部活動の特別強化プロジェクト」Premiere Club指定校(男子バスケットボール部 Tier1)
- 東京都人事部勤労課労務担当指定 職員室環境改善実施校

1 学習指導(学びの基盤を固める)

目標	具体的な取組
①大学入学共通テスト、GMARCH以上の私立大学入試得点率向上 模擬試験の得点率向上	進路部や各教科において共通テスト、私立大学の入試問題を研究し、授業で反映させる。 模擬試験分析を踏まえ、傾向と対策を検討する。 模擬試験の事前・事後学習を習慣化する。
②授業力向上・学力向上	授業力向上研修の参加、模範授業参観、相互授業参観等を通して授業力向上を図る。 主体的学習定着のため、教科ごとに計画的な課題を課す。 自習室や自習スペース等自主学習環境を整備する。
③デジタル技術を活用した教育の推進	一人1台端末の積極的活用及び全学年がClassiを活用することにより、AIによる個別最適な学びを実現させ、効率的な学習の実現を目指す。
④英語力の強化とグローバル人材の育成	海外修学旅行、海外研修旅行、国際交流事業等様々な場面でグローバル人材の育成に向けた英語力強化に取り組む。 実用英語技能検定全員受験により、資格取得を推進する。

2 進路指導（自ら未来を切り拓く力の育成）

①組織的な進路指導	三年間を見通した進路指導全体計画に基づき、進路部が主導し、各学年・教科と連携して、組織的・計画的な進路指導を行う。 模擬試験分析会、模擬試験ごとの生徒面談、ケース会議、出願対策講座、出願相談会等進学支援の充実を図る。
②第一志望を諦めない進学意識を育成する	全学年で導入している学習支援コンテンツを活用し、進路実現の支援を継続して行う。 大学訪問(中央大学、東京都立大学等)、大学模擬授業体験、出願対策講座(35大学による入試関係説明)等により、高い目標を持たせる。

3 生活指導（生徒目線に立った特別な支援の充実）

目標	具体的な取組と自己評価
①継続的に行う校則の見直し及び生徒に寄り添う主体性を育む指導	「生徒が作る校則を生徒が守る」をスローガンに掲げ、生徒に寄り添い、個性や意見を尊重し、主体性を育む指導を徹底する。管理する教育から脱却し、自ら考えて行動できる態度を育成する。
②健全育成	心身ともに健康で、他者を大切にしながら自分も尊重できる態度を育成する。生徒支援体制の確立により、安心して学校生活を送る環境を整える。家庭との連携を密にし、生徒支援体制の充実を図る。 安心・安全な学校づくりのため、セーフティ教室等あらゆる機会を通じて健全育成に努める。
③制服検討	校則見直しに伴い、長期間変更されていない制服について、リニューアルを実施する必要があるか、実施する場合、どのようにするか等を検討する。

4 特別活動・部活動（学習意欲・進路目標達成意識をエンカレッジする）

目標	具体的な取組と自己評価
①リーダーシップやフォロワーシップの育成 コミュニケーション能力の伸長 部活動・行事のレベルアップ	学校行事や部活動を通して生徒主体の活動を支援する。また、積極的な外部人材の活用等により、質を向上させ、レベルアップを図る。
②部活動の環境整備と推進	「部活で勝負」を合言葉に、部活動の振興を図る。高いレベルでの文武両道を目指し、充実した活動ができるよう支援する。「都立学校における部活動の特別強化プロジェクト」Premiere Clubに指定された男子バスケットボール部は、制度を最大限活用し、一層の強化を図るとともに学校全体に還元できるよう努力する。
③文化スポーツ等特別推薦の活用	文化スポーツ等特別推薦を実施する部活動は、上位大会への進出に努めるとともに、部顧問は所属部員の学力向上に教科担当や学級担任と連携して取り組む。

5 環境・防災教育

目標	具体的な取組と自己評価
①環境美化	環境美化に関する意識向上を図る。緑化を推進し、ゴミ分別や節電・節水励行など、環境問題に配慮した生活習慣を確立する。
②防災教育の推進	北多摩西部消防署と連携し、AR消火訓練、VR体験、AED研修、応急救護研修、初期消火訓練、煙体験等を実施する。 災害から自らの生命を守るために必要な「自助」の能力を身に付けさせる。

6 広報活動の充実

目標	具体的な取組と自己評価
①本校「ミナミ(HYM)」の魅力発信	ホームページの定期的な更新、学校説明会、学校見学会、外部説明会、塾・中学校訪問等を通して本校の教育活動を積極的に発信する
②中学生部活動体験の実施	文化スポーツ等特別推薦を実施している部は積極的に部活動体験の機会を設定する。

7 働き方改革とサービス事故防止

目標	具体的な取組と自己評価
①教職員ライフ・ワーク・バランスの推進	職員室環境改善を実施し、ペーパーレス化を推進する。時差勤務・テレワークの推奨、校内掲示板の活用促進等業務の効率化に取り組む。また、ICT機器やAI等の活用により、課題配信、提出、採点等の活用により業務効率化を図る。
②サービス事故防止	定期的なサービス事故防止研修を実施し、体罰、不適切な指導、暴言等の事故防止に取り組む。

8 経営企画室

目標	具体的な取組と自己評価
①積極的な学校経営参画と適切な予算執行	教職員との情報共有や、地域・保護者・外部機関と連携し、学校づくりに主体的に関わる。センター契約の活用により、予算の効率的な執行に努め、校務の効率化、職場環境の整備などを適切に執行していく。自律予算以外の予算活用についても適切に執行するよう努める。また、熱中症対策、感染症対策費用等を有効に活用する。
②学習環境の整備	施設老朽化に伴う様々な造改修に努める。 職員室環境改善事業、自習環境整備、昼食環境整備を適切に実施する。

